

## 五藤武史写真展「クローズアップ昆虫」

期間：2020年11月1日（日）～11月23日（月）

場所：貝塚市立自然遊学館多目的室

昆虫を接写した写真を展示します。日頃よく見かける虫たちに接近した写真や、小さくて日頃あまり気づかない体長1cm以下の昆虫にもカメラを向けました。



### 展示写真一覧

#### オオシオカラトンボ

夕方、水面から出てきたヤゴ。夜のうちに羽化し、翌朝飛び立ちました。

#### モンシロチョウ

チョウのオシリの部分を見て下さい。まさに、産卵の瞬間です。

#### オオカマキリ

NHKの番組「昆虫すごいぜ」でおなじみのカマキリ先生の顔です。

#### アシナガバエの仲間

初夏の頃からよく見られます。体長 3 mm ほどで、日の当たる葉の上にいます。

#### モンシロチョウ

卵からふ化したばかりの幼虫です。最初の食事は、自分の入っていた卵の殻です。

#### キマダラカメムシ

ふ化したばかりの幼虫は、しばらく卵殻の近くにいます。

#### ジュウサンホシテントウ

形が丸くないテントウムシです。生息数が少ないです。

#### オオセイボウ

大きな青い蜂という意味でこの名前。とても綺麗なハチです。

#### アブラムシの仲間

よく見ると、オシリから赤ちゃんが産まれかけています。

#### モンシロチョウ

チョウの顔は意外と毛深いのです。

#### ノミバッタ

体長 4~5 mm、色は真っ黒。飛びませんが、ジャンプ力は凄いです。

#### ゴマダラカミキリ

黒い地に白い斑点。一番よく見かけるカミキリムシです。

#### オオカマキリ

ふ化したばかりは前幼虫と呼ばれ、すぐに脱皮して 1 齢幼虫になります。

#### クロスジホソサジヨコバイ

5 mm ほどの大きさです。鮮やかな模様が綺麗です。

#### キイロホソガガンボ

よく見るガガンボより小さいです。交尾の様子を撮影する事ができました。

#### ヒメマルカツオブシムシ

春先、菊の仲間の花の花粉にやって来ます。体長 2~3 mm。

#### シバズ

体長 6 mm ほどの、小さなコオロギの仲間です。芝生や草原でくらしします。

#### マダラスズ

体長 6 mm ほどの大きさです。芝生や草原でくらしします。後ろ脚のマダラが特徴です。

#### オオキンカメムシ

体長 2 cm 以上あるカメムシです。珍しい種類の虫なので展示しました。

#### ツマグロキンバエ

大きな複眼の縞模様が特徴です。

#### ヒメアカネ

体長 3 cm ほどの小さな赤トンボです。生息地は限られています。

#### クロナガアリ

メヒシバなどのイネ科の種を集めます。夏から秋に活動します。

#### ヒトスジシマカ

幼虫時代は水中で過ごし、ボウフラと呼ばれています。羽化する瞬間です。

#### クマゼミ

大阪では一番よく見かけるセミです。正面から迫って撮影しました。



五藤武史写真展「クローズアップ昆虫」会場

---

### 五藤武史プロフィール

大阪府高石市在住。1951年同市生まれ。泉大津市の小学校で2003年まで教壇に立つ。写真歴は55年。子どもの頃は、電車と星ばかり撮影していました。教員になってからは、野草の花を撮影していました。一眼デジカメを使うようになってから、ファインダーは昆虫中心に狙うようになりました。

### 機材

Nikon D-100

AF NIKKOR 70-180mm

AF-S NIKKOR 18-200mm

AF-S NIKKOR 300mm×1.4t.c.